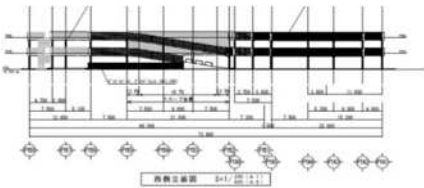


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	平岡ボデー 工場棟・立体駐車場	階数	地上2F
建設地	静岡県浜松市中央区桜台一丁目11	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	0 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年2月 予定	評価の実施日	2024年8月21日
敷地面積	14,004 m ²	作成者	佐野剛史
建築面積	2,012 m ²	確認日	2024年8月21日
延床面積	3,645 m ²	確認者	佐野剛史



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 0.8 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★ 環境効率 G (kg-CO₂/年・m²) 環境負荷 L (kg-CO₂/年・m²)	標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ 30% ☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆ 0 46 (kg-CO₂/年・m²) このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q のスコア = 2.6		
Q1 室内環境 Q1のスコア= 0.0	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.7	Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 2.5
LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.0		
LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.0	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.5	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.4

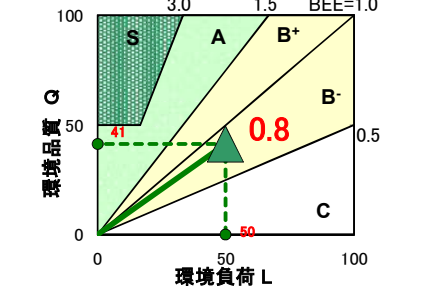
3 設計上の配慮事項		
総合 敷地外周に中高木の植栽を施し景観を良くしている。		
その他 特に無し		
Q1 室内環境 対象外	Q2 サービス性能 壁長さ比率が小さく、用途、設備増強の自由度が高い。	Q3 室外環境 (敷地内) 敷地内に十分な植栽がある。
LR1 エネルギー 省エネ適判対象外	LR2 資源・マテリアル 特に無し	LR3 敷地外環境 敷地内の風の通り道に配慮する等、敷地外の熱的負荷の低減について取り組んでいる。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®-建築(新築) 2021年SDGs対応版

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 追補版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	平岡ボデー 工場棟・立体駐車場	階数	地上2F
建設地	静岡県浜松市中央区桜台一丁目11	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	0 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年2月 予定	評価の実施日	2024年8月21日
敷地面積	14,004 m ²	作成者	佐野剛史
建築面積	2,012 m ²	確認日	2024年8月21日
延床面積	3,645 m ²	確認者	佐野剛史
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	
BEE = 0.8 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★ 		 3(保健) 2.6 4(教育) 1.5 5(ジェンダー) 1.4 6(水・衛生) 1.8 7(エネルギー) 1.6 8(経済・雇用) 1.4 9(イノベーション) 1.8 11(都市) 1.9 12(生産・消費) 2.1 13(気候変動) 1.3 15(陸上資源) 2.1 17(実施手段) 2.1 * SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています	
2-3 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-4 中項目の評価(バーチャート)	
標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記②以外の ④上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO ₂ 排出量の目安で示したものです (kg-CO ₂ /年・m ²)		Q のスコア = 2.6 Q1 室内環境 Q1のスコア= 0.0 Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.7 Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.5 LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.0 LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.0 LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.5 LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.4	
Q1 室内環境 音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境 N.A. N.A. N.A. N.A.		Q2 サービス性能 機能性 耐用性 対応性 N.A. 2.6 2.9	
Q3 室外環境(敷地内) 生物環境 まちなみ 地域性・ 2.0 3.0 2.5		LR1 エネルギー 建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的 N.A. N.A. N.A. 3.0	
LR2 資源・マテリアル 水資源 非再生材料の 使用削減 汚染物質 回避 2.2 2.5 3.0		LR3 敷地外環境 地球温暖化 地域環境 周辺環境 N.A. 3.8 3.0	
3 設計上の配慮事項		総合	
敷地外周に中高木の植栽を施し景観を良くしている。		その他 特に無し	
Q1 室内環境 対象外		Q2 サービス性能 壁長さ比率が小さく、用途、設備増強の自由度が高い。	
Q3 室外環境(敷地内) 敷地内に十分な植栽がある。		Q3 室外環境(敷地内) 敷地内に十分な植栽がある。	
LR1 エネルギー 省エネ適判対象外		LR2 資源・マテリアル 特に無し	
LR3 敷地外環境 敷地内の風の通り道に配慮する等、敷地外の熱的負荷の低減について取り組んでいる。		LR3 敷地外環境 敷地内の風の通り道に配慮する等、敷地外の熱的負荷の低減について取り組んでいる。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1. 建物概要

建物名称	平岡ボデー 工場棟・立体駐車場	BEE	0.8	BEEランク	B-	★★
------	-----------------	-----	-----	--------	----	----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点※/満点	取組み度	評価
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	2.7	/5	 がんばろう
“災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	2.6	/5	 がんばろう
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	2.4	/5	 がんばろう
“緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	3.3	/5	 ふつつ
※対応するCASBEEのスコア（平均）を5点満点で表示 します。（スコア1.0＝1点、スコア5.0＝5点）		評価 凡例 よい 4 点以上 ふつつ 3 点以上 	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要

内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)		
■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)	Q-1 2 2.1 2.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ⑤ 2.2.3 ⑥ 2.2.4 ⑦ 2.2.5 ⑧ 2.2.6 ⑨	2.7 外皮性能 昼光利用設備 昼光制御 躯体材料の耐用年数 外壁仕上げ材の補修必要間隔 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 空調換気ダクトの更新必要間隔 空調・給排水配管の更新必要間隔 主要設備機器の更新必要間隔
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤外構緑地指数20%以上を確保した。 ⑥緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。	Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥	生物環境の保全と創出 敷地内温熱環境の向上
■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)	LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑪	建物外皮の熱負荷抑制 自然エネルギー利用 設備システムの高効率化 モニタリング 運用管理体制
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)	LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑫ 1.2.2 ⑬ 2 2.1 ⑭ 2.2 ⑮ 2.3 ⑯ 2.4 ⑰ 2.5 ⑱ 2.6 ⑲ 3 3.1 ⑳ 3.2 3.2.1 ㉑ 3.2.2 ㉒ 3.2.3 ㉓	節水 雨水利用システム導入の有無 雑排水等利用システム導入の有無 材料使用量の削減 既存建築躯体等の継続使用 躯体材料におけるリサイクル材の使用 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 持続可能な森林から産出された木材 部材の再利用可能性向上への取組み 有害物質を含まない材料の使用 消火剤 断熱材 冷媒
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮主風向に対する見付面積比を40%以下とした。	LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	地球温暖化への配慮 温熱環境悪化の改善
“災害に強いすおか”の形成(Disaster)		
■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑰ 2.4 2.4.1 ⑱ 2.4.2 ⑲ 2.4.3 ⑲ 2.4.4 ⑲ 2.4.5 ⑲	2.6 耐震性 免震・制振性能 空調・換気設備 給排水・衛生設備 電気設備 機械・配管支持方法 通信・情報設備
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)		
■サービス性能対策 (⑲機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑲空間のゆとり) ⑲壁長さ比率0.1以上0.3未満で自由さを確保した。	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲	2.4 ユニバーサルデザイン計画 階高のゆとり 空間の形状・自由さ
■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮)	Q-3 3 3.1 ⑲	地域性への配慮、快適性の向上
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)		
■室外環境(敷地内)対策 (⑲生物環境の保全と創出/⑲まちなみ・景観への配慮/⑲敷地内温熱環境の向上) ⑲外構緑地指数20%以上を確保した。 ⑲緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。	Q-3 1 ⑲ 2 ⑲ 3 3.2 ⑲	3.3 生物環境の保全と創出 まちなみ景観への配慮 敷地内温熱環境の向上
■敷地外環境対策 (⑲持続可能な森林から産出された木材/⑲温熱環境悪化の改善) ⑲主風向に対する見付面積比を40%以下とした。	LR-2 2 2.5 ⑲ LR-3 2 2.2 ⑲	持続可能な森林から産出された木材 温熱環境悪化の改善